

# 英国グラウンドワーク スタディ・ツアー報告書

## 1. 概要

- (1) 日程：2011年9月8日（木）～14日（水）6泊7日
- (2) 参加者：日本側 10名（大学生など8名、引率・通訳2名）
- (3) 目的：  
日本の若者たちが、国際的なグラウンドワークや社会的企業を視察したり、関係者との意見交換などを行ったりして経験値を高め、国際的な視野と問題意識の醸成を図ること。
- (4) 主催：グラウンドワーク三島

## 2. 日程表

### ■ 1日目：9月8日（木）

19：00 IBIS LONDON EARLS COURT 集合（現地）>> ホテル（IBIS LONDON EARLS COURT）泊

### ■ 2日目：9月9日（金）

ホテル発 >> マンチェスターへ >> 11：00 Groundwork Cheshire 研修 >> ホテル（Holiday Inn Central Park）泊

### ■ 3日目：9月10日（土）

ホテル発 >> 9：50 Local Studies Centre 研修 >> 14：50 East Lancashire Railway 研修>> Robin Henslow 氏宅にてディスカッション >> ホテル（Holiday Inn Central Park）泊

### ■ 4日目：9月11日（日）

10:00 ピーク国立公園研修 >> 社会的企業（St. Thomas Community Network）視察 >> GW ブラック・カントリー事務所でのブリーフィング >> ホテル（Holiday Inn Birmingham City Centre）泊

### ■ 5日目：9月12日（月）

9:15 ウォルバーハンプトン駅発 >> 10:40 マンチェスター駅着 >> ロビン・ヘンショウ博士宅訪問（昼食）>> 湖水地方へ >> ユースホステル（Royal National）泊

### ■ 6日目：9月13日（火）

湖水地方駅発 >> マンチェスター発 >> ロンドン・ユーストン駅着 >> 【学生・社会人】ロンドン観光（自由行動）、【引率】GW メドウウェイにて打ち合わせ >> グリーン所長と現場視察 >> ホテル（Royal National）泊

### ■ 7日目：9月14日（水）

朝食後まとめ、解散（現地）

### 3. 地図



### 4. 旅のアルバム



集合場所であるロンドン・ユーストン駅にて、今回のスタディ・ツアーについてのオリエンテーション。学生参加者については、海外旅行が初めてという人も多く、また全員が、英国に来るのは初めてとのこと。同行指導の渡辺豊博グラウンドワーク三島事務局長（都留文科大学教授）の話に真剣に聞き入っていた。

@ London Euston Station



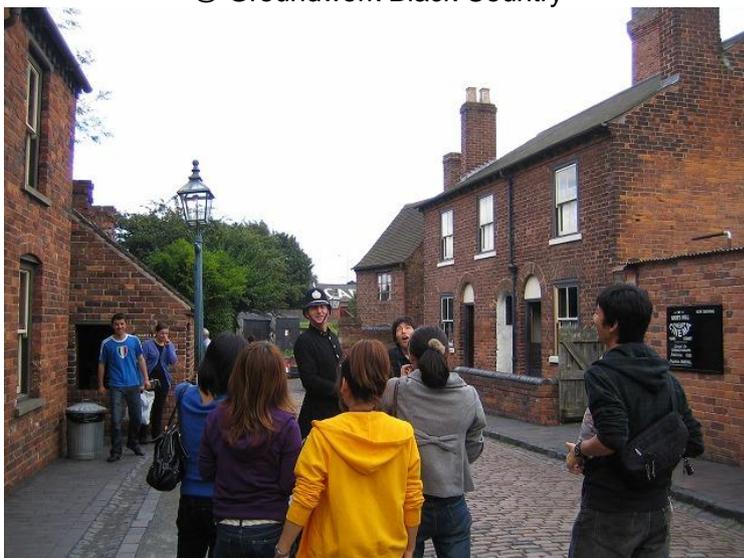
@ Groundwork Black Country

最初の目的地は、「グラウンドワークブラック・カントリー」。1989年に創立され、今年20周年を迎える慈善団体だ。年間予算規模は約4億円で、主な事業は、「コミュニティ（地域の活性化）」「教育」「環境ビジネス支援」「景観改善」そして「若者支援」の5分野。大学卒業生を対象にした実習制度（GAP: Graduate Apprentice Programme）など先駆的な試みを行っている。グラウンドワーク三島とは、2009年2月に若者交流に係るパートナーシップ協定を締結した。



@ Groundwork Black Country

Welcome to UK! 事務所に到着すると、英国の伝統料理フィッシュ&チップスで歓迎していただいた。



@ Black Country Living Museum

まず「ブラック・カントリー生活博物館」を訪れた。約104haの広い敷地に、産業革命の時代の街並みが再現されており、当時の衣装を身に着けた係員が同行して詳しく案内してくれる。当時、ブラック・カントリーでは、良質の石炭と鉄鉱石が産出し、鉄鋼業が興隆していた。またその煙突から、常にモクモクと黒煙が立ち上っていたことが、「ブラック・カントリー」の地名の由来になっているとの説明だった。



@ Groundwork Black Country

夕方には交流会。ホスト・ファミリーなども駆けつけてくれた。学生たちは、初めての本格的な英会話に、ちょっとドキドキ☆



@ Environmental Center (Groundwork Black Country)

爽やかな晴天。グラウンドワーク ブラック・カントリーの概要などについてのプレゼンテーションと質疑応答セッションは、野外で行った。



@ Environmental Center (Groundwork Black Country)

午後からは、環境保全活動の一環として、英国の若者たちと合同で環境センターの案内板設置作業を行った。



@ Environmental Center (Groundwork Black Country)

この環境センターでは、随時、自然教室などが開催されており、地元の小学生などたくさん子どもたちが訪れているとの説明だった。



@ St. Thomas's Community Network

今回の社会的企業視察先は、Dudleyの住宅街の中にあるセント・トーマス・コミュニティ・ネットワーク。廃校になった中学校を市から無償で借り受け、移民を対象にした英語教室、学校を中退した若者へのキャリア・ガイダンス、家具のリサイクルショップ、そして有機農園などを運営している。



@ St. Thomas's Community Network

施設を案内してくれたジニーさんは、インド系の移民だそうです。

ここで働き始めたきっかけは、英語の識字教室を受講したことだと言う。「幼い頃から両親に連れられて、あちらこちらの国々を転々としていたので、学校教育を受けることができなかったの。読み書きができるようになったのはこのセント・トーマスのお陰よ。その時、もう 40 歳になってたけどね」と笑った。そして今は、かつての自分のように、社会の中で困っている人達が、自分なりの活路を見つける力になりたいと、時間を見つけては、足しげくコミュニティ通いをしているのだそうだ。



@ St. Thomas's Community Network

有機農園も案内してもらった後、その新鮮な野菜をたっぷり使った昼食をいただいた。なお、食堂の壁には、ブラウン首相の来訪を受けた時の写真が飾られていた。



@ Groundwork Black Country

グラウンドワークの事務所に戻り、引き続き、英国グラウンドワークについてのブリーフィング。現在、英国内に 50 あるトラストの管理部門を 12 のリージョン事務所に統合する動きが進められている。



@ Groundwork Black Country

ジョン・コトグレーブ GW 中西部リージョン事務所長と渡辺豊博 GW 三島事務局長



@ Groundwork Black Country

グラウンドワーク ブラック・カン  
トリーのスタッフ、ボランティアの皆  
さんなどと



@ Dr. Robin Henshaw's house

英国グラウンドワークの立役者の一  
人、ロビン・ヘンショウ博士（英国  
勲章受賞）のご自宅で、ポテト・パ  
イなど伝統料理をご馳走になった。  
奥様のクリスティーンさんと。



@ Lake Ullswater (Lake District)

ロビン・ヘンショウさんにご案内い  
ただき、湖水地方を散策した。

「19世紀末頃、英国では多くの開発  
業者が、カントリー・ハウスや牧草  
地などを買いたさろうとしていた。  
それに対して、歴史的な建物や景観  
をそのままの姿で守ろうと立ち上が  
ったのが、ナショナル・トラストと  
いう市民運動だ。この湖水地方でも、  
ピーターラビットの作者ベアトリ  
ス・ポターが、本の売り上げを、競  
売にかけられた土地や建物の購入に  
あて、次々とナショナル・トラストに  
寄付した。今、私たちがのどかな田  
園風景を楽しむことができるのは、  
そうした先人のお陰。」



@ William Adams Roundabout (Medway)

グラウンドワーク ケント&メドウェイの招きを受け、ロンドンの南東約 50km にあるメドウェイにも足を延ばした。

メドウェイは、17 世紀初、英国人として最初に日本を訪れたウィリアム・アダムス（三浦按針）の生誕地。メドウェイ市は、ウィリアム・アダムスの名前を冠したロータリーを、日本をテーマにしたものに変更したいとしており、グラウンドワーク ケント&メドウェイが請け負った。

渡辺豊博グラウンドワーク三島事務局長は、本事業の設計デザインを担当することになった。



@ Heathrow Airport

ヒースロー空港で、8 日間の研修をふりかえった。「毎日たくさんの学びがあった」「今回、英国で学んだことについて、日本と比較して考えていきたい」など、熱いコメントが続いた。